

高木 侃教授 履歴・業績

高木 侃教授 履歴・業績

[履 歴]

【学歴・学位・職歴】

- 昭和17年1月 韓国慶尚北道に生まれる
- 昭和35年3月 埼玉県立本庄高等学校卒業
- 昭和41年3月 中央大学法学部法律学科卒業（法学士）
- 昭和44年3月 中央大学大学院法学研究科修士課程修了（法学修士）
- 昭和44年4月 関東短期大学専任講師
- 昭和49年12月 関東短期大学助教授
- 昭和51年4月～平成5年3月 創価大学法学部非常勤講師
- 昭和54年4月～昭和55年3月 内地留学（創価大学教授・石井良助研究室）
- 昭和61年4月 比較家族史学会理事
- 平成2年4月 関東短期大学教授
- 平成3年4月～平成5年3月 明治大学法学部非常勤講師
- 平成6年3月 中央大学より学位授与〔博士（法学）〕
- 平成7年4月～平成8年3月 熊本大学法学部非常勤講師
- 平成10年4月～平成11年3月 愛知大学法学部非常勤講師
- 平成11年4月～平成12年3月 熊本大学法学部非常勤講師
- 平成11年4月～平成12年3月 青山学院大学法学部非常勤講師
- 平成14年4月 専修大学法学部教授
- 平成13年4月～平成14年3月 国際日本文化研究センター研究員
- 平成14年4月～平成17年3月 国際日本文化研究センター客員教授
- 平成17年4月～平成21年3月 専修大学大学院法学研究科長（二期）

平成21年4月～平成22年3月 群馬県立県民健康科学大学非常勤講師
 平成21年4月～平成21年9月 山形大学人文学部非常勤講師
 平成21年4月～平成21年9月 大阪市立大学大学院法学研究科非常勤講師
 平成21年10月～平成22年3月 専修大学中期国内研究員
 平成23年4月～平成23年9月 山形大学人文学部非常勤講師
 平成23年4月 比較家族史学会会長

[専攻]

日本法制史・家族史

[所属学会（現在）]

法制史学会，比較家族史学会，地域文化学会

[資格]

平成10年2月 学芸員資格

[社会活動]

昭和49年11月～平成4年3月 群馬県史編纂調査委員兼執筆委員
 昭和61年6月～平成17年3月 東毛歴史資料館運営委員
 平成4年4月 縁切寺満徳寺資料館館長（平成17年4月より太田市立）
 平成11年4月～平成23年3月 大泉町情報公開不服審査委員会委員長
 平成11年6月 群馬県立文書館運営協議会委員
 平成15年10月～平成18年10月 日本学術会議基礎法学研究委員会委員
 平成16年4月 群馬県博物館運営協議会理事
 平成17年4月～平成19年3月 女性農業経営者の位置づけ諸問題検討会検討委員

【文部科学省科学研究費研究歴】

昭和60年度 一般研究 (C)「離縁状に関する実証的研究」(課題番号60510169)

昭和63・平成元年度 一般研究 (C)「近世の駁込みに関する研究」(課題番号63510190)

平成6・7年度 一般研究 (C)「近世の親子契約に関する実証的研究」(課題番号6620011)

平成9年2月 科学研究費公開促進費助成により『縁切寺東慶寺史料』(平凡社)を出版

平成9～11年度 基盤研究 (C)「『家族経営協定と農家相続』に関する実証的研究」(課題番号096220043)

平成12～14年度 基盤研究 (C)「近世の隠居に関する総合的研究」(課題番号12620016)

[業 績]

【著書】

(単著)

『縁切寺満徳寺考』私家版 B5版タイプ印刷, 昭和44年2月

『三くだり半—江戸の離婚と女性の地位』平凡社選書, 昭和62年3月, 後に『増補 三くだり半—江戸の離婚と女性の地位』平凡社ライブラリー, 平成11年7月

『縁切寺満徳寺の研究』成文堂, 平成2年12月

『三くだり半と縁切寺—江戸の離婚を読みなおす』講談社現代新書, 平成4年3月

『泣いて笑って三くだり半—女と男の縁切り作法』教育出版，平成13年 4 月

(単編著)

『縁切寺満徳寺史料集』成文堂，昭和51年 7 月

『縁切寺東慶寺史料』平凡社，平成 9 年 2 月

(共著)

「近世庶民の女性と家」石川栄吉他編『家と女性 役割』三省堂，平成元年 1 月

「詫状・離縁状」日本歴史学会編『概説 古文書学 近世編』吉川弘文館，平成元年 6 月

「家族のこめごと・江戸の知恵」文藝春秋編『江戸こぼれ話』文春文庫，平成 8 年 9 月

「縁切寺満徳寺の内済離縁—新史料の紹介をかねて」愛知大学記念会編『見城幸雄教授頌寿記念 法制と文化』平成11年 3 月

「近世の名前—上野国の事例」森謙二他編『名前と社会—名づけの社会史』早稲田大学出版，平成11年 6 月

「高齢者の自助努力—親子契約文書をめぐって」落合美恵子編『徳川時代のライフコース—歴史人口学との対話』ミネルヴァ書房，平成18年 3 月

「結婚・離婚」高階・田中編『江戸への新視点』新書館，平成18年12月

「持ち込まれた法—間部家の転封と「火元入寺」制の移入をめぐって」
(『大名権力の法と裁判』創文社，平成19年 2 月)

専修大学の歴史編集委員会編『専修大学の歴史』平凡社，平成21年 9 月

(共編著)

堀内節他編『明治前期身分法大全 I—婚姻編 I』中央大学出版部，昭和48 年 3 月

堀内節他編『明治前期身分法大全Ⅱ—婚姻編Ⅱ』中央大学出版部，昭和49年3月

堀内節他編『明治前期身分法大全Ⅲ—親子編』中央大学出版部，昭和52年3月

堀内節他編『明治前期身分法大全Ⅳ—親族総編』中央大学出版部，昭和56年3月

高木侃編『老いの相生』専修大学出版，2006年5月（「高齢者の自助精神—老後を子に依存しなかった江戸」執筆）

【論説】

「縁切寺満徳寺—縁切寺法手続きを中心に」（『関東短期大学紀要』第15集，昭和44年12月）

「離縁状に関する若干の考察—縁切寺における離婚に関連して」（『関東短期大学紀要』第16集，昭和45年12月），後に総合女性史研究会編『日本女性史論集4 婚姻と女性』（吉川弘文館，平成10年1月）に採録される。

「縁切寺川柳考—附索引」（『関東短期大学紀要』第17集，昭和46年12月）

「縁切寺東慶寺助命駈入文書考」（『法学新報』第79巻第7号，昭和47年7月）

「満徳寺離婚文書考—駈入女の扶持料をめぐって」（『関東短期大学紀要』第18集，昭和47年12月）

「近世末離婚関係文書考」（『関東学園開学50周年記念論文集』〈関東短期大学発行〉，昭和49年3月）

「徳川満徳寺の縁切寺法」（『法学新報』第83巻第7・8・9号，昭和52年5月）

「民法第3条につて—その成立経過」（『関東短期大学紀要』第23集，昭和

53年 3 月)

「火事と火元入寺」(『群馬県史研究』第13号, 昭和56年 2 月)

「明治民法施行前における襲名」(『関東短期大学紀要』第26集, 昭和56年 3 月)

「二通の離縁状—離婚法上の意義」(『関東短期大学紀要』第27集, 昭和57年 3 月)

「帰縁証文考」(『松平正敏先生喜寿記念論文集』〈関東学園・関東短期大学発行〉昭和57年12月)

「明治初年地方庁の戸籍執務の一斑」(『私学研修』92号, 昭和58年 3 月)

「用文章にあらわれた離縁状の書式」(『古文書研究』第23号, 昭和59年12月)

「明治時代婚姻法五題」(『関東短期大学紀要』第29集, 昭和60年 3 月)

「離縁状返り一札考」(『関東短期大学紀要』第30集, 昭和61年 3 月)

「『三行り半』成立考」(『法学新報』第92巻第7・8・9号, 昭和61年 6 月)

「陣屋日記にみる『縁切り駈込み』について—信濃国田野口藩の場合」(『関東短期大学紀要』第32集, 昭和63年 3 月)

「満徳寺離縁状と書式の流布」(『群馬県史研究』第29号, 平成元年 3 月)

「三くだり半と駈込み寺東慶寺—大和市の事例」(『大和市史研究』第15号, 平成元年 3 月)

「江戸時代庶民離婚における夫婦財産」(『創価法学』19巻3・4合併号, 平成2年 3 月), 後に義江明子編『日本家族史論集8 婚姻と家族・親族』(吉川弘文館, 平成14年12月)に採録される。

「武士の離縁状」(『(愛知学院大学) 法学研究』第37巻第1・2号, 平成7年 2 月)

「聶養子縁組証文考」(『ぐんま史料研究』第5号, 平成7年11月)

「江戸時代の家族協定—「家族経営協定」推進にむけての意識改革のため
に」(『関東短期大学紀要』第43集, 平成10年12月)

「民法典は教科書にあら—第3条の制定過程と編纂方針の一斑」(『関東
短期大学紀要』第44集 平成11年12月)

「Retirement and Self-reliance in Tokugawa Japan」(『関東短期大学紀要』第
44集 平成11年12月)

「居住空間にみる隠居の処遇—下野国住居絵図帳の事例紹介」(『関東短期
大学紀要』第46集, 平成14年3月)

「妻方からの離縁状—庶民離婚法上の意義」(『専修法学論集』第87号, 平
成15年3月)

「Marriage and Divorce in the Edo Period」(『JAPAN ECHO』30巻5号, 平
成15年10月)

「Matrimonioy divorcio en la era Edo」(『Cuadernos de Japon』16巻4号, 平
成15年11月)

「縁切寺満徳寺の内済離縁事例—武蔵国大里郡平塚新田村「かね」駆け込
み一件」(『専修法学論集』第100号, 平成19年7月)

「明治初期氏名法制の一斑—旧官名通称使用禁止令をめぐる宇和島県の史
料紹介」(『(専修大学) 現文研』第84号, 平成20年3月)

「20歳成人について—18歳成年論議の前提として」(『法学セミナー』平成
20年7月号)

「契約書式の戯文—徳川時代庶民契約意識の一斑」(『専修法学論集』第105
号, 平成21年7月)

「縁切寺東慶寺の寺法離縁—上総国山辺郡関下村「とよ」駆け込み一件」
(『龍谷法学』第42巻第4号, 平成23年3月)

【研究ノート】

- 「満徳寺の離婚史料について—『とう』一件にみる満徳寺文書と地方文書の性格を中心に」（『群馬文化』第141号，昭和48年5月）
- 「江戸時代の親子契約」（『群馬文化』第215号，昭和63年7月）
- 「飯盛り女の離縁状」（『専修法学論集』第96号，平成18年3月）
- 「縁切寺満徳寺の内済離縁（二）—新史料の紹介をかねて」（『専修法学論集』第109号，平成22年7月）

【資料】

- 「東慶寺関係文書—小丸文書—近世離婚法制資料集録（一）」（『関東短期大学紀要』第19集，昭和48年7月）
- 「東慶寺関係文書（二）—公文録—近世離婚法制資料集録（二）」（『関東短期大学紀要』第20集，昭和50年3月）
- 「東慶寺関係文書（三）—松平藩日誌—近世離婚法制資料集録（三）」（『関東短期大学紀要』第21集，昭和51年3月）
- 「東慶寺関係文書（三）—松平藩日誌—近世離婚法制資料集録（三）」（『関東短期大学紀要』第21集，昭和51年3月）
- 「東慶寺関係文書（四）—撰要類集—近世離婚法制資料集録（四）」（『関東短期大学紀要』第22集，昭和52年3月）
- 「満徳寺離婚史料補遺」（『群馬文化』199号，昭和53年12月）
- 「東慶寺関係文書（五）—仙台屋文書—近世離婚法制資料集録（五）」（『関東短期大学紀要』第24集，昭和54年3月）
- 「東慶寺所蔵『松ヶ岡日記』—解題と翻刻」（『関東短期大学紀要』第25集，昭和55年3月）
- 「明治前期長崎県身分関係伺指令—執務手控『戸籍適要』の未完史料」（『法学新報』第89巻第7・8号，昭和58年1月）

「縁切寺満徳寺史料補遺」(『法学新報』第90巻第7・8号, 昭和59年2月)

「東慶寺所蔵『松ヶ岡日記』一解題と翻刻(二・完)」(『関東短期大学紀要』第28集, 昭和59年3月)

「名主横尾家文書にみる『縁切り駈込み』史料—夫の縁切り駈込み事例を中心に」

(『関東短期大学紀要』第31集, 昭和62年3月)

「縁切寺満徳寺史料補遺(二)」(『法学新報』第92巻第5・6号, 昭和61年2月)

「史料瞥見 母を実家にかえすこと」(『比較家族史研究』第5号, 平成2年12月)

「三くだり半—俳山亭文庫旧蔵・高木所蔵未刊史料」(『関東短期大学紀要』第35集, 平成2年12月)

「縁切寺満徳寺史料拾遺—寺院修復関係史料」(関東学園松平記念経済・文化研究所編『利根川水系地域の社会と労働』平成3年3月)

「漱石と縁切寺東慶寺」(『関東短期大学 国語国文』第3号, 平成6年3月)

「武家屋敷への『縁切り駈込み』史料—岩松(新田)満次郎家の事例」(『関東短期大学紀要』第39集, 平成6年12月)

「三くだり半—俳山亭文庫旧蔵・高木所蔵未刊史料」(『関東短期大学紀要』第39集, 平成6年12月)

「漱石と縁切寺東慶寺(続)」(『関東短期大学 国語国文』第4号, 平成7年3月)

「『三右衛門日記』の離縁状関連資料」(『関東短期大学紀要』第45集, 平成13年3月)

「隠居・聶養子関係証文—石井良助文庫および高木所蔵文書」(『専修法学論集』第87号, 平成15年3月)

- 「縁切寺東慶寺史料補遺—東慶寺旧蔵および武州入間郡善能寺村「つる」内濟離縁一件文書を中心に」(『専修法学論集』第90号, 平成16年2月2004年3月)
- 「徳川時代後期家族法関係史料(一)—縁切寺満徳寺資料館所蔵離縁状・離縁関係文書」(『専修法学論集』第93号, 平成17年2月年3月)
- 「徳川時代後期家族法関係史料(二)—縁切寺満徳寺資料館保管上田四郎コレクション」(『専修法学論集』第94号, 平成17年7月)
- 「徳川時代後期家族法関係史料(三)—武州日光道中大沢町飯売下女年季奉公人関係文書」(『専修法学論集』第95号, 平成17年12月)
- 「徳川時代後期家族法関係史料(四)—永青文庫所蔵『離婚并義絶帳』(一)」(『専修法学論集』第97号, 平成18年7月)
- 「徳川時代後期家族法関係史料(五)—永青文庫所蔵『離婚并義絶帳』(二)」(『専修法学論集』第98号, 平成18年12月)
- 「徳川時代後期家族法関係史料(六)—永青文庫所蔵『離婚并義絶帳』(三)」(『専修法学論集』第99号, 平成19年3月)
- 「徳川時代後期家族法関係史料(七)—永青文庫所蔵『離婚并義絶帳』(四・完)」(『専修法学論集』第101号, 平成19年12月)
- 「徳川時代後期家族法関係史料(八)—石井良助文庫所蔵離縁状・離婚関係文書ならびに高木所蔵離縁状」(『専修法学論集』第102号, 平成20年3月)
- 「徳川時代後期家族法関係史料(九)—桃李舎文庫旧蔵武州足立郡清右衛門新田繁右衛門文書」(『専修法学論集』第103号, 平成20年7月)
- 「徳川時代後期家族法関係史料(十)—縁切寺満徳寺資料館および高木侃所蔵・松本藩「和順願」」(『専修法学論集』第107号, 2009年12月)
- 「徳川時代後期家族法関係史料(十一)—明和八年上野国吾妻郡内百姓女房男僧寺院縁切り駈け込み一件文書」(『専修法学論集』第111号, 平

成23年 3月)

「徳川時代後期家族法関係史料 (十二) —離縁状返り一札補遺」(『専修法学論集』第112号, 平成23年 7月)

〈満徳寺に関する上記以外の資料翻刻三点は、『縁切寺満徳寺の研究』史料編に採録につき省略した。〉

【書評】

鎌田浩「江戸時代離婚法の再検討—いわゆる夫専権離婚制への疑問」(『法制史研究』31号, 昭和57年 3月)

林由紀子「尾張藩士の婚姻と家格」・「尾張藩神官の服忌令研究」ほか一編(『法制史研究』33号, 昭和59年 3月)

荃田佳寿子「武士の離婚と駆込」(『法制史研究』34号, 昭和60年 3月)

【学会報告】

昭和51年11月 「満徳寺離縁状について」(日本古文書学会)

昭和54年 4月 「徳川満徳寺の縁切寺法—東慶寺との比較を通して」(法制史学会)

昭和58年 4月 「近世庶民離婚法について—離縁状の授受をめぐる」(法制史学会)

昭和58年 6月 「用文章にあらわれた離縁状の書式」(日本古文書学会)

昭和60年11月 「近世庶民の女性と家—離婚を中心として」(比較家族史学会)

昭和61年 4月 「縁切り駈込みについて」(法制史学会)

昭和62年 6月 「江戸時代における女性と財産—離婚を中心として」(比較家族史学会)

平成 7年10月 「江戸時代の親子契約—地方 (村方) 文書を通して」(法制

史学会)

【百科事典・辞典等】

『大百科事典』（平凡社）アジール【日本】ほか3項目、『日本史大事典』（平凡社）縁切寺ほか7項目、『国史大辞典』（吉川弘文館）離別状ほか3項目、『歴史学事典【第2巻】』離婚ほか2項目、『事典 家族』離縁状ほか16項目

【新聞・雑誌の論文・随筆・署名記事】

「明治初年の縁切寺東慶寺」（『郷土神奈川』第3号，昭和49年8月）
 「縁切寺—アジールの一斑」（『月刊百科』199号〈平凡社〉，昭和54年4月）
 「女房がかけこんだところ」（『群馬歴史散歩』第42号，昭和55年9月）
 「ミニ伝記 江戸時代から女は強かった」（『新潮45』昭和62年5月号）
 「離婚・いまむかし—江戸時代も実態は多種多様」（毎日新聞昭和62年9月16日夕刊）
 「家族の絆—離縁状と親子契約にみる」（『日本の歴史別冊歴史の読み方6 文献資料を読む・近世』朝日新聞社，平成元年9月）
 「江戸の離婚におもうこと」（『民事研修』438号，93年10月）
 「三くだり半の真相」（『別冊宝島126 江戸の真実』平成3年2月）後に『江戸の真実』宝島社文庫，平成12年2月として刊行される。
 「上州無宿人と三郎の数奇な生涯」（『別冊宝島126 江戸の真実』平成3年2月）
 「私の〈三くだり半〉」（『本』講談社，平成3年8月）
 「江戸時代 女はもっと強かった？」（『婦人公論』平成3年12月号）
 「縁切り寺満徳寺とかかあ天下」（『上州路』212号，平成3年12月）
 「再婚も宿縁？—群馬・満徳寺と離縁を研究，資料館長に」（日本経済新聞

平成6年5月27日文化欄)

「駆込女「てる」一件」(『有鄰』第330号, 平成7年5月10日)

「三くだり半—私のコレクション」(『青淵』第556号, 平成7年7月)

「江戸の親子契約—老親扶養をめぐる」(『月刊百科』406号, 平成8年8月)

「アジールとしての縁切寺—『縁切寺東慶寺史料』によせて」(毎日新聞平成9年3月12日夕刊)

「家族経営協定」推進にむけての意識改革のために—江戸時代の家族協定に学ぶ」(『農政調査時報』第517号, 平成11年10月)

「縁切寺満徳寺資料館物語—研究小史をかねて」(『専修大学今村法律研究室報』第38号, 平成14年12月)

「女房をゆずった亭主—私の三くだり半コレクション(二)」(『青淵』第655号, 平成15年10月)

「明日はどっちだ! 隠居契約」(『アエラ』平成17年2月号)

「大学と学生の街—東京・千代田区神田神保町」(『大学時報』301号, 平成17年3月)

「地域史随想 縁切り一筋四十年」(『群馬文化』第289号, 平成19年1月)

「高かった江戸時代の離婚率」(『週刊 藤沢周平の世界』平成19年2月4日号)

「歴史随想 願入寺は縁切寺だった!?!—男僧寺院における縁切寺的機能一斑」(『茨城県史研究』95号, 平成23年3月)

【対談・座談】

「ふたつの縁切寺」(井上禅定師と対談, 『有鄰』第313号, 平成5年12月10日号)

「男の鉢巻・女の腰巻」(杉浦日向子氏等と座談, 日本文化デザインフォー

ラム編『やりすぎの存在』平成7年9月、団談文庫14)
 「武士の家計簿と幕末女性の生活」(磯田道史氏と対談、『歴史読本』平成
 16年10月号)

【その他 (ラジオ・テレビ)】

平成元年11月14日, NHK 教育 TV・ETV8『永井路子, 静と政子を語る』
 に出演, 永井路子氏と対談
 平成9年1月14日, NHK 総合 TV の堂々日本史『大江戸八百八町の花嫁
 たち』に VTR 出演
 平成11年2月2日, NHK 総合 TV の堂々日本史『時代を変えた女たち』
 に VTR 出演
 平成11年12月21日, テレビ朝日たけしの万物創世紀『それでも結婚したい
 スペシャル』監修, かつ VTR 出演
 平成14年9月19日, NHK ラジオ深夜便 (川野一字アナ担当) に出演, 後
 に「老後に備えて子と契約」(『ラジオ深夜便 歴史に親しむ【特選
 集】』NHK サービスセンター, 平成23年1月)として出版される。
 平成22年8月10日, NHK 教育 TV の『歴史は眠らない—婚活白書 (倉田
 真由美)』に VTR 出演
 平成22年9月2日, TBS ラジオ「山中秀樹の時泥棒」に出演